

海馬壊死症を疑う猫の一例

山口 喬¹⁾, 松崎 史郎²⁾

1) みたぞの動物病院 2) 長町南動物病院

はじめに

猫の脳炎の原因はウイルス、細菌、原虫などによる感染性脳炎が多く、自己免疫性脳炎は稀である。感染性脳炎と自己免疫性脳炎では治療方針が異なるため診断を慎重に行う必要がある。

今回猫の自己免疫性脳炎を一因とする海馬壊死症を疑う猫に遭遇したためその経過を報告する。

海馬壊死症

猫の海馬壊死症は難治性のでんかん発作や口部顔面自動症などを認め、両側海馬壊死を病理学的特徴とする疾患である。

海馬壊死症の一部では電位依存性カリウムチャンネル (VGKC) 複合体抗体が検出され、このイオンチャンネルに対する免疫反応が原因の自己免疫性脳炎と考えられている。また体内に発生した腫瘍により発現した抗腫瘍遺伝子に対する抗体が免疫反応を起こす可能性も示唆されている。

主にヨーロッパで報告があり、日本ではポーランドから来日した猫で1例報告がある。発症年齢は3ヶ月から9歳、性差と好発品種は認められない。

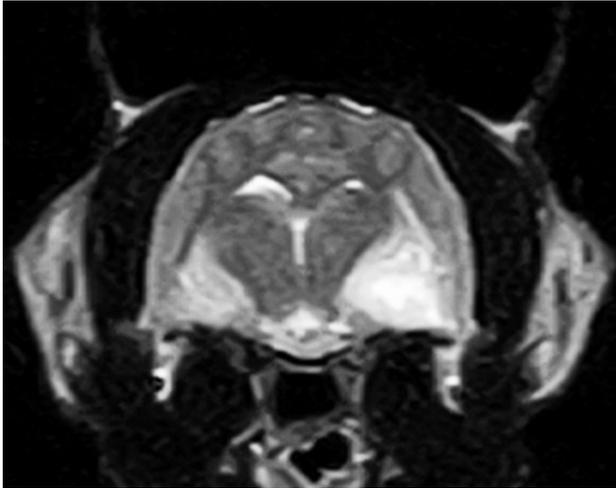
MRIでは両側海馬にT2強調画像・FLAIR画像で高信号所見を認め、造影増強を伴う場合がある。抗てんかん薬に対し抵抗性を示すが自己免疫性炎症に起因する海馬壊死症では免疫抑制量のプレドニゾロンの治療により良化する。

症 例

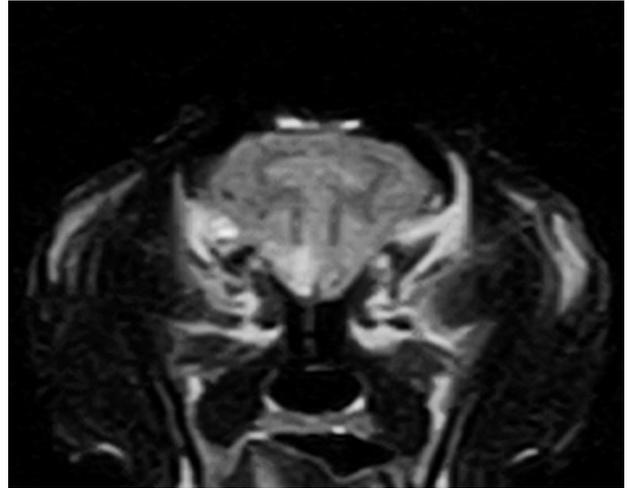
日本猫、6歳、去勢雄、室内飼育。流涎と口部顔面自動症を主訴に受診。来院時に流涎と瞳孔散大と強直性けいれんを認めた。血液検査、レントゲン検査、心電図検査では異常を認めなかった。てんかんを疑いゾニサミド5mg/kg BID、レベチラセタム22mg/kg TIDを処方した。抗てんかん薬を服用後発作の回数は減少したが、第54病日に食欲低下、第56病日に発作重責を起こしたためプレドニゾロン1mg/kg/dayを処方した。第63病日に再度発作重責を認めたため入院管理とし、フェノバルビタール2mg/kg TID iv、レベチラセタム30mg/kg TID iv、ミダゾラム0.3mg/kg/h CRIを投与した。第69病日にMRI検査を実施した。

MRI検査

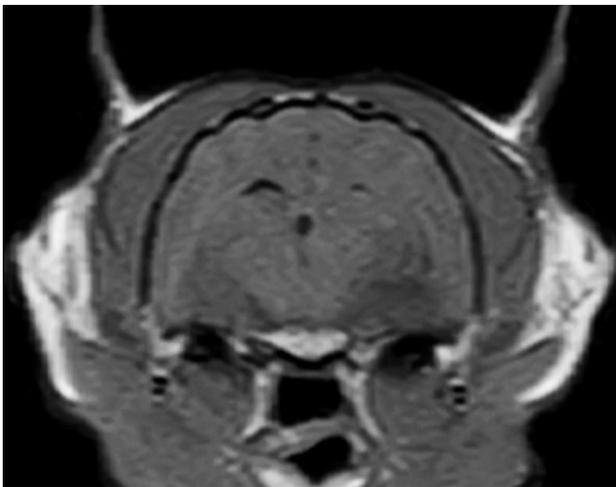
左右海馬及び梨状葉にT2強調画像・FLAIR画像でやや高～高信号領域を認めた(画像1)。これらの領域はT1強調画像で低～等信号を示し(画像2)、Gd造影T1強調画像で左海馬が均一な造影増強効果、左梨状葉がリング状の造影増強効果を示した(画像3)。右前頭葉にT2強調画像・FLAIR画像でやや高信号領域を認めた(画像4)。テント切痕ヘルニア、小脳ヘルニア(画像5)を認めた。脳圧亢進を疑い脳脊髄液検査は実施しなかった。



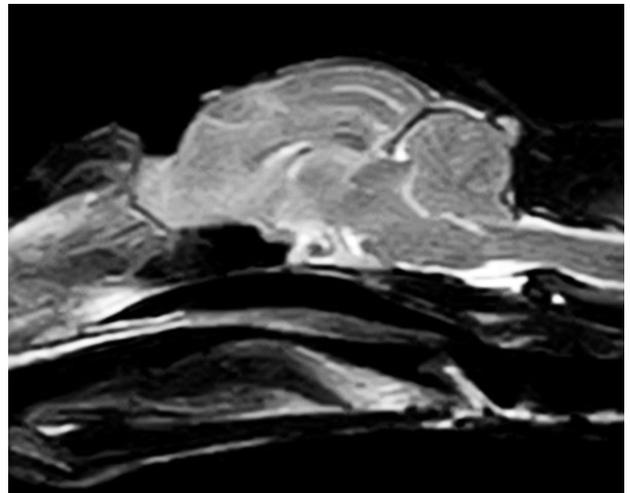
画像1 T2強調画像



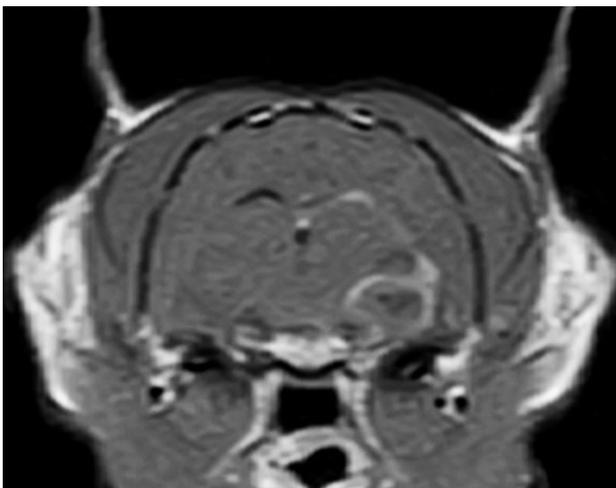
画像4 T2強調画像



画像2 T1強調画像



画像5 T2強調画像



画像3 Gd造影T1強調画像

治療及び経過

MRI所見から海馬壊死症を疑い、プレドニゾロン 4 mg/kg/day 3日間その後プレドニゾロン 2 gm/kg/dayを投与したところ、てんかん発作は消失した。第90病日にプレドニゾロンを1.5mg/kg/dayに減量した。第104病日に視覚消失と活動性の低下を認めプレドニゾロン 2 mg/kg/dayに増量しシクロスポリン 7 mg/kg/dayを処方した。第116日病日に飼い主から斃死したとの連絡を受けた。

まとめ

本症例はMRI検査で海馬壊死症に特徴的な所見を認めたが脳脊髄液検査や病理組織検査を実施できず

確定診断には至らなかった。しかし免疫抑制量のプレドニゾロンに治療反応がありMRI所見と合わせて海馬壊死症を強く疑うものであった。

考 察

本症例は日本で生まれた雑種猫であり、日本猫でも海馬壊死症を発症する可能性が示唆された。当院の傾向では猫のMRI検査数は犬に比較し圧倒的に少ない。猫のMRI検査数が増加すれば日本国内でも海馬壊死症の症例がより発見されるかもしれない。

初期の治療ではプレドニゾロンと抗てんかん薬を使用し、症状が進行した後にシクロスポリンを併用したが悪化の一途をたどった。診断時から免疫抑制剤の併用や犬の脳炎で使用されるシトシンアラビノシドの投与を考慮すべきであったかもしれない。

参考文献

Daisuke Hasegawa et al. Deleted in colorectal cancer (netrin-1 receptor) antibodies and limbic encephalitis in a cat with hippocampal necrosis. Journal of Veterinary Internal Medicine 2019;33:1440-1445